

企業名：キッセイ薬品工業株式会社

レポート名：期末レポート

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

1p.のキッセイ薬品行動憲章を見ると、この会社の目指す姿が理解できる。国内外を問わず人権を尊重し、優れた製品の開発・提供によって世界の向上及び医療に貢献することを理想としており、それを達成するべく13の行動原則を挙げている。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

キッセイの競争優位性は創薬研究の独自性にあるということが報告書からは読み取れる。具体的には構造生物学をはじめとした各分野の研究者が一体となって長年培ってきた低分子創薬の分子設計技術であり、特にインシリコ創薬では新規母核化合物の創製にも成功し、実績も積み重ねている。また、キッセイは利便性の高い生活習慣病の治療薬と同等に患者数が少ない希少疾病領域に力を入れており、そこに企業の独自性が表れている。さらに、キッセイは創製品をライセンスアウトすることによる海外収益基盤を持っており、その豊富な実績から世界の製薬企業に注目されている。多くの海外企業と強いパートナーシップがあることによって、広く海外から最適な人材を集め新薬の研究・開発・販売を行うことができる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

キッセイは2020年4月より中期5ヵ年計画「PEGASUS」をスタートさせ、国内売上の拡大、海外収益基盤の強化、開発パイプラインの拡充、経営環境の変化に対応する経営基盤の強化の4つの基本方針のもと、計画的に取り組んでいる。8,9p.では具体的な発売申請予定が示されており、現時点でその計画の進みは順調であるため、キッセイの競争優位性に持続性はあると考えられる。また、競争優位性を生み出す上で最も重要であるのが創薬プロセスの革新であるが、オープンイノベーションを活用したAIの実用的な技術開発を目的としたコンソーシアムや産学連携による次世代創薬AI開発に参画し、AI創薬技術の獲得を目指している。さらに、クライオ電子顕微鏡などの高度構造解析技術を駆使し、新規作用機序の新薬創製を目指す新たな創薬プラットフォームの構築にも力を入れている。このように革新的な技術を常に模索・挑戦していることはキッセイの企業価値をより高めていくと期待できる。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

キッセイでは3つの「人材育成ビジョン」が定められており、その実現のために中長期的に各種人材育成施策を展開し、継続的・計画的な人材育成が行われている。また、社員の適性を考慮する他選択型人事制度やみなし勤務制度など柔軟な就労形態を採用されている。これらのことから、キッセイは人的資本の価値向上のための最適な環境が用意されていると考える。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

専門用語が多く分かりにくい箇所がいくつか見られる。読み手であるステークホルダーは必ずしも製薬現場の知識に富んでいないため、よりわかりやすい言葉に置き換えるか、注釈などを挟むのが好ましい。また、同業他社との比較が含まれていないため、市場での地位を客観的に把握することができない。売上高や特許数などを比較したグラフなどで自社の強みをより具体的かつ説得力を持って示すべきである。